

“Now is All “ (今こそがすべて)

サッカーワールドカップ・カタール大会が始まりました！

校長 松本 雅史

先週は、「語先後礼」のお話をしました。みんなの挨拶が以前にもまして丁寧で自分からすすんでできていることを感じています。挨拶は、自分だけでなく、相手を気持ちよくさせます。ですから、これからも相手をしっかり見て、笑顔でできるといいですね。そして、今週は待ちに待った展覧会です。金曜日には五小灯り祭も行います。本当に楽しみですね！

さて、昨日からサッカーワールドカップが始まりました。これは、4年に1度行われます。サッカーの大会における世界最高峰と位置付けられ、全世界の総視聴者数は35億人を超える、まさに地球規模のスポーツイベントです。アジア・オセアニアやヨーロッパ、アフリカなどの地域の代表の国、32か国が世界一を目指して戦いを繰り広げます。今回の開催国は中東のカタールという国です。広さは秋田県ほどの砂漠の中の国です。人口は約250万人です。このワールドカップに日本が初めて出場したのは、1998年のフランス大会からです。日本はそれ以降7大会連続で、ワールドカップに出場しています。日本も2002年に韓国との共同開催という形で開催国になっています。

このワールドカップにおいて、実は日本人応援団の振る舞いが毎回とても話題になっています。一体それは何だと思いませんか？

2018年のロシア大会でのことです。強豪国ベルギーとの試合に惜しくも日本は2-3で敗れてしまいます。試合に負けて悔し涙を流していた応援団は、その後スタジアムのゴミ拾いを始めた

のです。この姿をとりあげたロシアのメディアは、「彼らは日本戦の1試合1試合で一丸となって働き、最高のゲストとしての評判を確立した」「日本のサポーターは多くの称賛を受けている」と評しました。勝っても負けても、変わらずゴミ拾いをする日本人サポーターの姿は、メディアから大きな注目を集めました。

ロシア大会では、日本人サポーターにならって複数の国のサポーターがゴミ拾いをする姿が報道されています。メディアで紹介されたのは、日本代表と同じグループに所属していたセネガルのサポーターやウルグアイのサポーターがゴミ拾いをする姿です。セネガルのサポーターはポーランドとの試合後にゴミ拾いをする姿が、そして、ウルグアイ対サウジアラビアの試合後には、ウルグアイのサポーターが客席の下に落ちているゴミを拾い集める姿が伝えられました。また、日本が勝利をおさめた日本対コロンビア戦では、日本人サポーターのゴミ拾いの様子だけでなく、コロンビアのサポーターがゴミ拾いをする姿が紹介されました。試合に負けたにも関わらず、日本人サポーターにゴミ袋を分けてもらってゴミ拾いをする姿や、日本人サポーターに日本語で「おめでとう」と祝福の言葉を掛けるコロンビア人サポーターの姿が紹介されました。こうした姿に対し、日本からも「こういう姿を見ると、コロンビアの国も今後応援したくなります」などのコメントが多く寄せられました。日本人サポーターのゴミ拾いの姿が高く評価され、海外のサポーターへと清掃活動の輪が広がっていくのは素晴らしいことですね。

世界の頂点を目指しての戦いが、始まりました。と同時に、サッカーを愛する人の輪が、大きな地球を包む絆となって、美しい世界、平和な世界を創ってほしいと心から願います。

これで今朝のお話は終わります。